

【実践報告】

教育実習Ⅱ・Ⅲ（小学校）の報告

広島文教女子大学人間科学部

初等教育学科 教授 佐伯育郎

1 はじめに

小学校教員志望者が、実際の教育現場に出て行う4週間（20日間）の実習である。これまでの教育実習Ⅶや教育実習Ⅰにおける学びを生かして、学生自身が実習校の児童を対象とした実際の授業を担当する。この実習を通して、子どもの実態を理解し、現場の教員と小学校の実態、地域との関係等々を体験的に理解するとともに、教師としての使命を自覚し、教育に対する意欲を高め、教師として必要な資質能力の向上に向けて自己の学修課題を明らかにすることを目的とする。

2 実施のスケジュール

項目	時期	主な内容
事前学修 (学内)	4月～5月 7月～8月	<ul style="list-style-type: none">・実習校から教育実習受け入れ通知書が学生サポート課へ届く。学生サポート課に出向いて確認した後、実習校へ電話でご挨拶をする。・教育実習事前説明会に参加し、教育実習Ⅱ・Ⅲの意義、目的、心構え、手続き等を再確認する。教育実習記録を受け取り、記述方法や書類などの提出について理解する。・実習校への事前訪問により、指導担当教諭などから、配属学年、配属学級の児童の実態や、教育実習の全体計画、実習の事前課題などを確認する。教育実習出勤簿や教育実習評価票などについて説明し、実習校へ提出する。
本実習 20日間 (学外)	9月～12月	<ul style="list-style-type: none">・実習の内容は、実習校により計画される。実習中は教育実習日誌等の記録を取り、小学校教諭の職務等についての理解を深める。・主な学修課題として、①教育の理論と実践の一体化②基本的教育技術の習得③発達期にある子どもの理解④教育的人間関係における相互作用についての学習⑤教育者としての自覚の高揚、が挙げられる。観察・参加はもとより、実習授業に関しても万全の準備をした上で意欲的・主体的に取り組む。
事後学修 (学内)	10月～1月 平成29年度は 12月1・7・ 12日5コマに 実施。今年 度のタイトル は“みんな で35（サイ コー）な未来 へGO！”	<ul style="list-style-type: none">・各自の教育実習を振り返り、実習校から返却された教育実習記録を読み返し、加筆・修正をしてまとめ直す。校長、指導担当教諭からの所見にも目を通した後、学生サポート課に再提出する。・教育実習記録をもとに実習校での学びを振り返り、教育実習報告会用のレジュメを作成する。提出されたレジュメを印刷・製本し、教育実習報告書を作成する。・教育実習実行委員会を中心に、教育実習報告会を企画・運営する。・実習報告会では、児童理解の実態とその手だて、真似したい指導法とその意義、自身の課題と課題に対する考え方など、学生が主体的に設定したテーマに基づき、小グループに分かれて討論・発表を行う。他学年の学生や教員も参加し、議論に加わる。・報告会終了後、振り返り冊子を作成・発行することで教育実習のまとめとし、今後の学びに生かす。

3 活動の概要

(1) 実習授業・研究（査定）授業の主なテーマ等（学生の報告資料より抜粋）

教科名	対象	単元・題材名
国語	第2学年	秋がいっぱい
書写	第6学年	書きぞめ「感謝」
社会	第3学年	店ではたらく人
算数	第6学年	比例と反比例
理科	第5学年	電流が生み出す力
音楽	第4学年	鑑賞「ファランドール」
図画工作	第1学年	はこかざるんるん
家庭	第6学年	まかせてね 今日の食事
体育	第1学年	ボールなげゲーム「ドッジボール」
道徳	第3学年	ぼくたち、手つだいます！
言語数理運用	第6学年	広島お好み焼き物語

(2) 教育実習を通して学んだこと（学生の報告資料より抜粋）

・配属クラスの学級経営

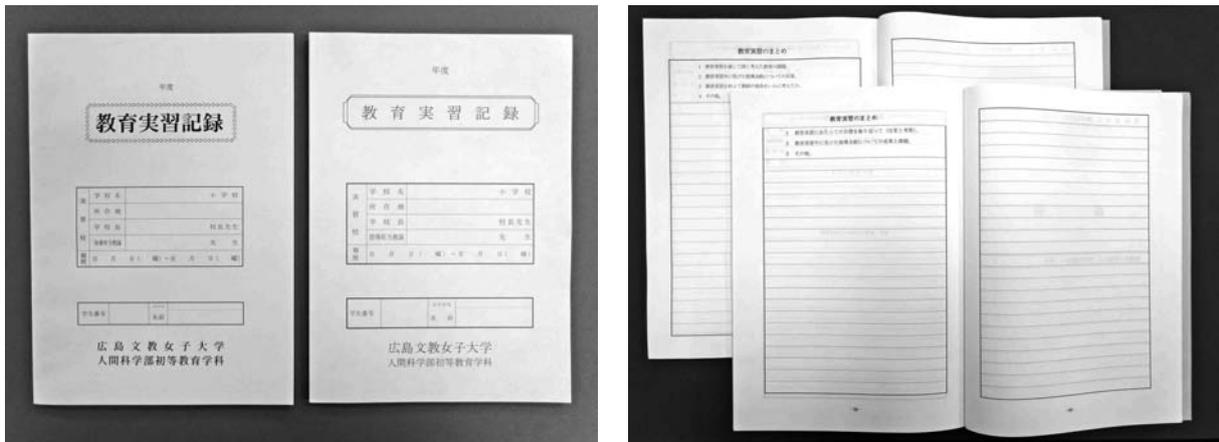
授業では、児童に考えさせることを大切にされていた。算数や理科は教科書に解答があるため、先生はほとんど教科書を使わずに工夫して授業をされていた。また問題を解かせているときに机間指導で、正解を出している児童と間違った答えを出している児童を把握しておき、手を挙げさせる時に、間違った答えを出した児童にまず発表させる。その後に正解を出した児童に発表させ、間違った児童は何がどう間違っているかが分かったら、それを発表する。間違った答えを出してもそれを恥ずかしいと思わせるのではなく、分からない児童がいたら責めたり流したりせず、クラス全員で解決していくというような授業が行われていた。（配属：第6学年）

・真似したい実習校の先生方の指導法・工夫とその理由

第5学年の体育のマットの授業の指導法を真似したいと思った。ICTを使った授業で、様々なことを真似したいと思った。まず、マットを横一列ではなく、斜めにずらして配置することで、前後に教員が立った際によく見える環境を作られていたことだ。実際に前から見たり後ろから見たりすると周りがよく見え、児童の活動の様子がよく分かった。次に、タブレットを使い、自分の活動を動画撮影することで、自分の成果や改善点がよく分かるということだ。実際に友だちや教員に「ここはこうした方がいいよ」「あしが伸びてないよ」などと言われてもなかなか実感できないことが多い。しかし、タブレットを使うことで、自分の目で見て理解できるという点が効果的だと思った。また、動画に残しておくことで個別指導をしている間の児童の様子や今どれだけできているかなどの評価ができることにもつながるので、マットや跳び箱の授業などにも使っていきたいと思った。（配属：第2学年）

4 成果と課題

今年度は、これまで使用してきた教育実習記録の在庫が尽きたこともあり、教育実習記録を改訂した。「教育実習のまとめ」のページでは、従来は「1. 教育実習を通して深く考えた教育の課題, 2. 教育実習中に受けた指導全般についての反省, 3. 教育実習を終えて教師の使命をいかに考えたか, 4. その他」の4項目だったが、学生の実態に合わせて書きやすいよう「1. 教育実習にあたっての目標を振り返って（反省と考察）, 2. 教育実習中に受けた指導全般についての成果と課題, 3. その他」の3点に改めた。例年通り、教育実習Ⅱ・Ⅲ担当教員2名で教育実習記録の閲覧・確認を行った。事前説明会で配付した資料と記述内容が似たものは昨年度に比べると少なく、比較的充実した内容が見られた。ただし、学生サポート課への再提出が大幅に遅れた学生も複数見られた。

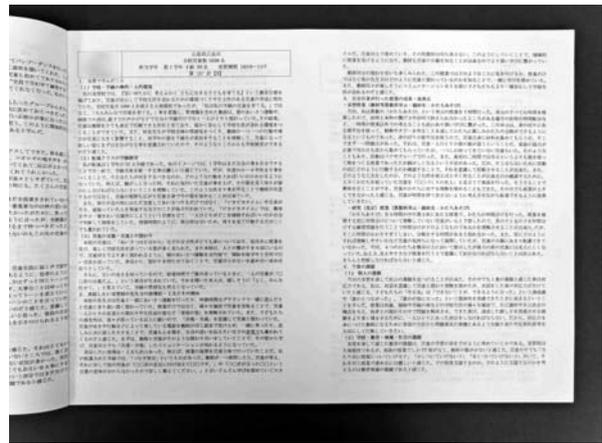
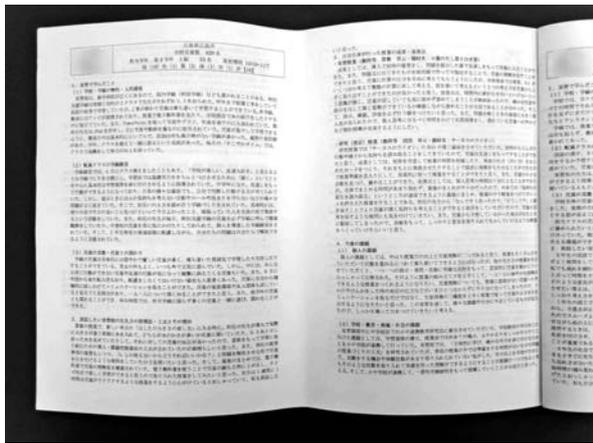


【教育実習記録（小学校）左：新，右：旧】【教育実習のまとめ 下：旧，上：新】

実習授業の時間数は通常10時間程度と学生に指導しているが、実習校の事情などもあり3時間から25時間までの開きがあった。

実習報告会実行委員は、昨年度と同様入念な準備を行い、レジュメ作成の際には実習期間を考慮して、所属ゼミナール毎の締切日を設定しており、実にきめ細かな運営であったと言える。実習報告書の内容は比較的充実していたが、昨年度同様ページ番号が振られていなかったもので、読みやすさという点については今後改善していきたい。





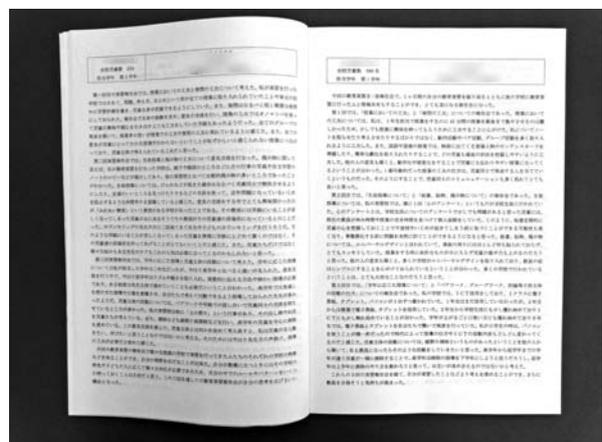
【初等教育学科35期生 教育実習Ⅱ・Ⅲ（小）報告書】

実習報告会は、例年通り3コマ分実施した。討議・質疑応答は1回目から質の高い内容であり、下級生の出席も昨年度より多かったが、下級生からの質問は昨年度よりも少なかった。発表には、iPadを活用しており、視覚的にもわかりやすいものであったが、グループによっては見えにくい内容も見られた。回を重ねる毎に報告会の内容を改善・充実させており、臨機応変な対応ができる実行委員たちであったと言える。



【初等教育学科35期生 教育実習Ⅱ・Ⅲ（小）報告会】

実習報告会の終了後、例年通り「教育実習Ⅱ・Ⅲ報告会 振り返り冊子」を作成した。全3回の報告会で出た参加者からの質問に対する回答も記述されており、充実した内容となっている。今後も、学生の主体性を大切にしながら、よりよい方向へと支援していきたいと考える。



【初等教育学科35期生 教育実習Ⅱ・Ⅲ（小）振り返り冊子（質疑応答&感想まとめ）】